

木簡学会二〇周年記念図録『日本古代木簡集成』の刊行

木簡学会では、会創立二〇周年を記念して木簡図録『日本古代木簡集成』を刊行した。これは、先に一〇周年を記念して刊行した『日本古代木簡選』（一九九〇年一月、岩波書店刊）の続編にあたるもので、これ以後一九九九年度までに全国で出土した古代の木簡を中心に、各発掘調査担当機関のご協力を得て、のべ一〇七の遺跡の木簡計五一〇点を鮮明な図版として紹介する。

この間、長屋王家木簡・二条大路木簡の発見など、木簡の出土点数は飛躍的に増大した。それとともに、木簡出土の量と質の地方へのひろがりにはまことに目を見張るものがある。今回はこうした状況を受けて内容別の編集方針をとり、図版、釈文、解説の三本立てとした。また、木簡出土遺跡・遺構解説を付し、検索の便を図った。解説の執筆は、佐藤宗諱・寺崎保広・山中章・吉川真司・増渕徹・山口英男・渡辺晃宏・舘野和己・鈴木景二・佐藤信・本郷真紹・和田萃・東野治之・古尾谷知浩の各氏（執筆順）の分担による。また、印刷は岡村印刷工業株式会社が行った。

B四版 巻頭カラー図版二プレート、モノクロ図版一二四プレート、解説ほか一四二頁 (財)東京大学出版会、二〇〇三年五月刊 定価二〇〇〇円（税別）